

平成 30 年度 農業科

教科	農業	科目	動物活用	単位数	2	年次	2
使用教科書							
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

動物活用では、『動物を活かして用い、効果のあるように利用する』ために必要なことを、座学や実習を通して学習します。

動物の各器官の位置、形態、構造(解剖)を知り、それぞれの器官がどのような働き(生理)をしているのかを学ぶことは、動物の遺伝、栄養、病気などを理解するために必要なことであり、また動物を飼育管理する場合にも直接、間接的に役立ちます。そのため、実際の動物や剥製標本、骨格標本などを活用し、解剖実習も実施することによって更に理解を深めます。

また、動物愛護論や動物関係法令、動物倫理についても学び、動物を活用するうえでの道徳感についても学習します。そして、身につけた知識や技術を動物の飼育管理実習に活かしていくことを最終的な目標とします。

2 学習の到達目標

- 動物愛護論・動物倫理学・動物関係法令を理解する。
- 動物の解剖と生理を理解する。
- 動物の栄養と飼料について理解する。
- 飼育管理と衛生管理、病気と感染について理解する。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・技能
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> ・動物愛護論・動物倫理学・動物関係法令に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 ・動物の解剖・生理に関心を持ち、意欲的に学習及び解剖実習に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物を利用するうえで動物愛護や倫理とのバランスや社会との関わり方について考えることができる。 ・動物の飼育に関する科学的な見方と課題解決できる実践力、判断力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物観や動物愛護運動の歴史、倫理や社会について理解し、習得している。 ・動物の解剖・生理を理解したうえで、各動物種における飼育管理および飼料給与についての技術を習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物愛護論・動物倫理学・動物関係法令を正しく理解し、実践的に飼育管理に反映することができる。 ・動物の解剖・生理について、正しく理解し、知識を身につけている。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 ノートやレポートの記述 定期考査の結果 自己評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

